JAPAN HERITAGE
日本遺産

有松

NO.83　有松まちづくりの会

◇紙当て絞り

この技法は字のごとく紙（和紙）を防染の為に使用する技法です。現在は行われていない技法ですが再現は可能です。和紙を生地に糊付けして、その和紙輪郭を合わせ縫いし、和紙を生地の中に包み込むようにするもので合わせ縫い絞りより染料の浸透を、和紙と糊によってより防ぐことになります。従って、地色の部分と和紙を貼り付けた部分の色の差が、合わせ縫い絞りより強調されます。合わせ縫いする為縫い加工のできる図案にしなくてはなりません。角のある柄より葉っぱのような丸みのある柄にした方が良い結果が得られます。この技法が行われていた頃、どんな種類の和紙や糊が使われていたかは不明です。

解説：竹 田　昌 弘

今私達が目指すもの

有松まちづくりの会会長　竹田嘉兵衛

「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町　有松～」というタイトルで日本遺産に認定された有松は、今でも江戸時代の浮世絵さながらの景観が広がっています。

その成り立ちを考えてみますと一六〇八年に阿久比の庄より有松に移住してきた八人の若者によって集落がつくられました。その時にはこの地は粘土質の農業には不適な土地で、彼等はたちまち困ってしまいました。そして生きんが為に目をつけたのは建築中の名古屋城で働く九州から来た人々の持っていた絞り染めでした。

その頃日本を統一した徳川家康は、京都と江戸を結ぶ幹線道路としての東海道を整備していました。その東海道に面して展開していた有松の町で売られた絞りは街道一の名産と言われる様になり、それを知った旅人達はこぞって有松絞りを買い求め、それを見た尾張徳川家は有松の数軒の絞り屋に製造・販売の権利を与えました。それは同時に尾張徳川家にとっても安定した税収となったのです。

有松は絞りの製造販売を兼ねた大きなマーケットになり、町の経済は振興し、それが財源となって今日に残る立派な町並みと、美しい山車まつりをつくり上げたのです。

天明四年（一七八四）の大火災で町が全焼してしまった時も一旦は全てを失いながらも、尾張徳川家の援助を得て絞業界を立て直し、過去への反省から火事になりにくい塗籠造りの立派な家をつくり上げ、現在の町並みの基礎をつくったのです。

その後、太平洋戦争さえ乗り越えてきた有松も昭和五十年代より日本人の価値観が「古い考え方である日本文化を捨てて新しい考え方であるアメリカ文化を取り入れていくべきだ」との風潮が広がり、有松絞りも古い町並みも危機に瀕（ひん）することになりました。そんな中で古い伝統文化の中にも素晴らしいものもあり、それを未来に向かってつないでいく事が必要だと考えた地元の諸先輩が、他の地区に先がけて昭和四十八年に「有松まちづくりの会」を発足させ、続いて「全国町並み保存連盟」も結成しました。

その後今日まで、有松まちづくりの会の皆様の献身的な努力と行政の力添えもあり、平成二十八年（二〇一六）には重要伝統的建造物群保存地区に選定され、そのあと二〇一九年には有松は日本遺産の認定を受けました。

今後有松の文化を維持発展させる為には、自分達の力でそれを可能となる経済的なバックボーンをつくらねばなりません。幸いにも有松には伝統的工芸品産業の絞りと、それによって創られた、幕末にイギリスの外交官アーネストサトウによって「私が日本で見た最も清潔で豊かな感じのする町」と賞讃された町並みと、立派な山車を持つ祭りがその歴史と共に保存されています。その三つを「常在観光」の資源として、有松の文化を守れるような町づくりをしていきたいと思います。ここに育った子供達がそれを誇りうる様な町につくり上げることこそ、今私達が目指すものだと思います。

有松のみなさまとともに、前へ

名古屋市観光文化交流局観光推進課長　渡辺孝彦

平素は名古屋市の観光行政にご尽力いただき、御礼申し上げます。令和２年は、世界中が新型コロナウイルス感染症に揺るがされる一年となり、様々な期待を打ち砕かれる事態となっています。まずは有松の地域のみなさまにおかれましても、密閉・密集・密接の３つの密の回避をはじめとする感染症予防に留意いただきますよう、改めてお願いいたします。

さて、令和２年版観光白書（令和２年６月16日閣議決定）において、①２０１９年の国内旅行及び訪日外国人旅行はいずれも旅行消費額は前年を上回り、伸び率は７％程度となっている、②中部ブロックにおいても延べ宿泊者数及び外国人延べ宿泊者数ともに伸びており、中でも外国人に関しては、17.8％と高い伸び率となっていることが明らかになりました。本来であれば、この状況を弾みとして、名古屋市としても観光行政を推進するつもりでおりました。

しかしながら、感染拡大に伴い、海外からの渡航制限による訪日外国人旅行客の途絶、さらには、４月に政府が緊急事態宣言を発令、東京オリンピック・パラリンピックの延期をはじめとする、日本各地でイベントやコンサート、地域行事などが延期・中止となりました。有松においても、一大行事である６月の「有松絞りまつり」が中止とされ、地域のみなさまも落胆されたことと拝察いたします。

感染症の拡大に伴って、名古屋市内でも小売業・飲食業を中心に事業の実績悪化を耳にすることが多くありました。そのような過酷な状況にも関わらず、文字通り「臨機応変」に布製マスクの製造を始められ、連日、マスクを買い求める人の列ができていたと聞いております。その様子はメディアでも多く取り上げられたことはご存知かと思います。また、名古屋市長も会見等でメディア露出する際には有松・鳴海絞りのマスクを着用するなど、有松のＰＲに一役買えたのではないかと考えております。

令和２年度は、有松が日本遺産に認定されて２年目となります。観光推進課においても、日本遺産認定を好機ととらえ、日本文化の再発見を主眼とする雑誌での特集掲載や名古屋駅のデジタルサイネージへの掲出など、日本国内での知名度向上と東海三県での存在感を確固たるものにするべくプロモーション事業に取り組んでいるところです。取り組みのひとつとして月刊誌である「Discover Japan」への掲載を本年度内に２回予定しておりますが、編集者が取材のために来名した際には、大都市の中に有松のようなエリアが現存していることに驚きを隠せない様子でした。また、有松あないびとの会のガイドにより、１６０８年の竹田庄九郎の入植に始まる有松の歴史、現存する建物の特徴、絞りの技法に至るまで余すところなく説明をいただきました。その後の取材でも、地域のみなさまのご協力をいただきましたことに、改めて御礼申し上げます。

感染症の拡大により、当面の間、訪日外国人旅行客が期待できない状況が続くものと思われます。しかし、困難な時期においても、絞りのマスクを求める人が列を成した例のとおり、観光客だけでなく名古屋市民や市内事業者に有松という魅力的なエリアが存在することを再発見してもらうことが重要であり、また、こういった危機的な状況においても、「今できることは何があるだろうか」と、前を向いたまちづくりが、もう一段魅力的な〝まち〟へと繋げていくものと考えております。

■有松地区で建築や看板設置等をお考えの方へ

有松伝建地区及び町並み保存地区内で、工事や看板の設置等を行う場合、市へ許可申請・届出の手続きが必要です。

手続き前には、有松町並み相談会で事前相談（意見交換）を行っていますので、具体的な計画を立てる前のできるだけ早い段階で、まずは町内会長または歴史まちづくり推進室へご連絡をお願いいたします。

お問い合わせ先：歴史まちづくり推進室（電話　052-972-2782）

有松日本遺産実行委員会より

実行委員会が設立されて何か月も経ちますが、未だ組織も完成しておらず、文化庁より認可された行事を分散した状態で一部進行している状況です。本来であれば、組織的に役割分担をした上で全町一丸となって取り組みたい事業が、個別のものになってしまっているのです。そこで、現在、事務局を中心に町の方誰もが参加したくなるような組織作りを再編成しています。補助金は3年間に渡って執行されますが、その後を見据えた組織に、今していかなければと考えます。

特に、有松のこれからを担う若者の参加ができるようにしなければなりません。老兵が頑張るのではなく、若者に協力するのです。

兎角、有松は各団体の長ばかりが動いて一丸となることに疎いのではないでしょうか。長を責めるのではなく、町の誰もが動きたくなるような町にしたいのです。今回、執筆を依頼されてもさて、どうしたらいいのか悩みました。

新型コロナが一向に終息せず、既定の事業の実施すら危ぶまれています。まずは、皆が各自の思いをぶつけて新たな将来を議論する必要があるように思います。実行委員会が、そんな場所になれるといいと思い、今一度皆様の結集を望みます。

有松日本遺産実行委員会
事務局長　成田　基雄

後継者育成事業製作作品の町並み展示について

当産地では、熟練技能者の老齢化に伴う若手技能者の確保及び従事者の資質の向上を図ることが喫緊の課題でした。然しながら中小零細企業の多い当産地では、個々の企業による従事者の確保、育成は困難であり、産地として伝統的工芸品の知識と技術技法の統一的な研修を行うことが求められていました。

そこで愛知県絞工業組合では平成21年に後継者育成事業をスタートしました。今年で13年目を迎え、現在では80名位の人達が技術習得のため勉強に励んでいます。

習得する技法は、縫い絞り・巻上絞り・帽子絞り・疋田三浦絞り・横引鹿の子絞りと基本的な括りを中心にそれぞれの伝統工芸士の先生方からしっかりと指導を頂き、先生達の後に続く職人となれるよう日々努力をしているところです。

今回の日本遺産関連事業に於いては、この内15名の方に参加して頂き浴衣を15反製作することになっています。

今後、有松の町で行われる各種イベント事業で連携協議しながら展示していく予定です。又来年度は有松絞りまつりでの展示も予定しています。

名桐　秋雄

「有松の歴史調査を次世代に繋げるための調査研究」について

令和元年から、有松の町が日本遺産に認定されたことを契機として、この魅力ある町の歴史・伝統・文化を次世代に引き継ぐために有志が集まり、有松まちづくりの会と桜花学園大学等のご協力を得て、有松史料調査保存会を立ち上げ活動をしてきました。

調査研究は令和元年11月から活動を開始して令和2年3月までは調査方法等について月1回会合を開催し検討を行いました。

令和2年4月からの活動は新型コロナウイルス感染症防止のためにオンライン会議を5回行いました。また、勉強会として名古屋市市政資料館への訪問と元名古屋市博物館学芸員の山本祐子氏を招いて研修を行いました。

実際の史料調査は鈴木家から鈴木金蔵氏の資料を提供して頂き、今までに2回史料の調査と分類を行っています。

引き続き、皆様方の家で保存されている史料等についても調査を行いたいと思いますのでその際にはご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

なお、有松史料調査保存会は現在、有志メンバー9名で活動しています。

山田　修生

Arimatsu Blue 日本遺産にあいにきて

有松に訪れる方々、そして多くの町民の皆さんが『藍染めが風に揺れる町 有松』を体感し、行ってみたい町、誇りうる町であることを広く発信するため藍染め絞りのジャンボのれんを作成しています。当初は第36回有松絞りまつりの一か月前から展示ができるよう段取りをしておりましたが、コロナ禍の影響で絞りまつりは中止となり、日本遺産の事業そのものもなかなか実行できない状況が続いておりました。そんな6月、日本遺産実行委員会並びに絞りまつり実行委員会のメンバーは、制作活動だけは止めまいと下絵付けの作業を始めました。のれんの絵柄は広重の東海道五十三次から名産有松絞りの絵を選択。6m×4mほどのジャンボのれんへの絵付けは絞り業者が中心となり夜遅くまで続き、現在はくくり作業の最中です。

お披露目は10月、11月の2か月にわたり繰り広げられる日本遺産事業や名鉄キャンペーンの中で、絞会館近辺(予定)に設置されます。最終的には3枚の大のれんが有松東海道に掲げられ、風に揺れる風景を見ることができるでしょう。楽しみにしていてください。

山上　正晃

鯉活プロジェクト

この事業のきっかけは、昨年9月の中部節句品工業組合青年部の方との話で、有松絞りで鯉のぼりを制作し、東海道を川に見立て、町家の格子に飾ったら町も明るくなり大人から子供まで見に来てくれて賑わうのではないか、失われつつある日本古来の素晴らしい節句文化をもう一度、現代の生活に取り入れていただけるきっかけになるのではないか、との想いが重なり始動する事となりました。

絞りデザイン構想、生地選定、型紙、型彫、絵刷り、生地裁断、絞り括り加工、染色、糸抜き、湯のし、縫製、仕上げ等、大まかに12工程を経て桜の咲く頃に完成し、4月21日より5月10日まで東海道沿いの東町→有松郵便局、碧海信用金庫、中町→山与遊歩道入口、中濱商店、松拍苑、西町→竹田嘉兵衛商店、岡邸に展示致しました。また、中日新聞にも掲載紹介され、地元の方がSNS等に投稿されたりして概ね好評を博したのではと思っております。是非この活動を継続して毎年春には、有松を絞りの鯉のぼりでいっぱいにしていけたらと思っています。最後に、新型コロナウイルスの感染懸念の中、絞りの括り加工や染色、縫製をしていただいた職人さん、展示装飾をしていただいた福寄せ雛プロジェクトのメンバーの方々に深く感謝申し上げます。

中濵　豊

英語で学ぶ有松の歴史 ―シボリングリッシュ―

日本遺産に認定された有松には、歴史的な町並みや、有松絞り、伝統的な山車まつりなど、語りたくなる魅力がたくさんあります。特に、地元ボランティアガイドの「有松あないびとの会」の解説を聞きながらまちを歩くと、より深く有松のことを知ることができ、まさに「語りたくなる」知識を得ることができます。

そこで、今後増加すると思われる海外からの来訪者を想定し、次世代の有松で活躍する子どもたちが、まちの歴史を学び、英語でガイドする企画「シボリングリッシュ」を企画しました。

今年は、新型コロナ感染症の感染防止の観点から、夏休みの期間に集まって学ぶスタイルではなく、オンラインで学べる教材を制作することとし、まずは、紙芝居「庄九郎と仲間たち」を英語で語る動画を作成しました。

今後は、有松あないびとの会の皆さんに協力いただきながら、オンラインで体験できるヴァーチャルまちあるきツアーなどの動画教材を制作する予定です。来年度は、これらの教材を使って、実際に子どもたちが「英語ガイド」としてチャレンジできる機会を設けていきたいと考えています。

https://www.youtube.com/watch?v=ruxHNPkDKfs

武馬　淑恵

令和2年度 有松まちづくりの会 総会報告

当初5月15日（金）に予定されていた今年度の総会は、新型コロナウイルスのため講演会を中止し延期されることになりました。そして、6月22日（月）の定例役員会に先立ち、役員のみで行われることになりました。事前に、全会員にこの旨を周知するとともに、総会資料を配付し議案に対する意見・質問を受けることにして行われました。

竹田嘉兵衛会長のあいさつの後、高瀬喜祥副会長を議長に選出し議事の審議に入りました。議案は次の通り。

第1号議案　平成31年度　事業報告並びに収支決算書報告の承認について

第2号議案　令和2年度　事業計画並びに収支予算案の承認について

いずれも事業部の山田修生部長、財務部の鋤柄通雄部長より提案・説明をいただき、拍手により承認されました。

（伊藤総俊）

岡家住宅の公開状況

昨年6月から、有松あないびとの会の協力で毎週土・日に公開されてきました。名古屋市指定有形文化財である岡家住宅に多くの方が訪れてくださり、今では有松観光に欠かせないスポットの一つになっています。

〈この1年を振り返る〉

昨年6月から今年2月までの9カ月間で、約1万2千人の方が見学してくださいました。6月の絞りまつりや11月の晩秋の有松を楽しむ会で入館していただいた方が約半数でしたので、通常の土・日に入館された方は一日あたり80人程。もっとも11月の行楽シーズンにはこの倍近くの入館があるなど季節による変動がありますが・・

団体客があないびとの会の案内で見学する場合もありますが、多くは家族・友人連れの個人客です。岡家住宅の当番は2名で行っています。次々と訪れる見学者に、うれしい悲鳴です。でも、一方的に話しがちになりやすい団体客相手と違い、会話を楽しむかのような館内の案内は私たちにとっても楽しい一時でもありました。

ところが、3月以降コロナ禍により休館を余儀なくされました。6月からマスク着用・入館前の消毒や検温など感染防止策を講じた上で再開しました。6月は昨年とほぼ同数の6百人近くの方が見学して下さいました。7月以降感染拡大により見学者は昨年の半数の3百人程になっています。

〈岡家住宅の魅力〉

コロナ禍の中でも、これほど多くの方が有松を訪れ、岡家住宅を見学して下さいます。先日当番の折り、見学者のお一人が「転勤で名古屋に来ました。立派な昔の町並みが残っているのですね。街道からの眺めもすごいけど、建物の中を見るともっとすごいですね」と感想を述べられました。現在、館内の案内ができないのが残念ですが、岡家住宅自体が見学者に語りかけているのですね。

今は、土間からの見学のみですが、建物の整備が進められ、座敷に上がったり庭や蔵の見学ができるようになったりすると、岡家住宅の更なる価値を発信できると思います。

（有松あないびとの会　伊藤総俊）

町並みの新しい仲間

◆彩 Aya Irodori ☎052－621－6820

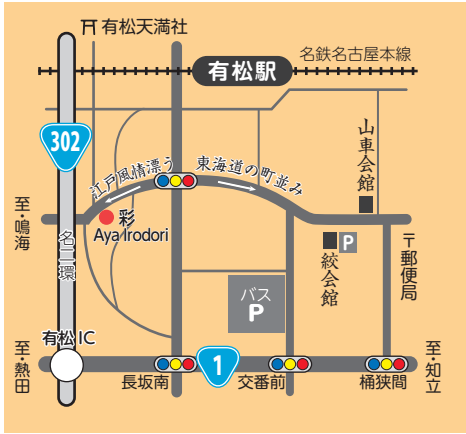
皆様のお力添えがありこのたび長年の夢であったアトリエを西町に構えさせて頂く事が出来ましたので、ご挨拶とご案内を申し上げます。

私、大須賀彩は1986年生まれ愛知県碧南市出身、名古屋学芸大学ファッション造形学科在学中に有松絞りと出会い大学3、4年次に有松絞まつりに作品を発表。大学4年次には絞り染めを使った作品で最優秀賞を受賞し20歳の時に「SUZUSAN」に弟子入りしました。その後「山上商店」で技術を磨き、30歳で独立しました。自ら絞り・染め・デザインを手がけるオリジナルブランド「彩 Aya Irodori」を立ち上げ、2020年8月7日にアトリエをオープンする事が出来ました。

30代の今の私ができる絞りの表現を用いて有松に一人でも多くの方が訪れてくれるよう努めて参りたいと思います。ご家族やご友人とお誘い合わせのうえお気軽にお立ち寄りくださいませ。今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

住　所　緑区有松807－1
営業時間　10時～18時　水・木定休日

和紙染め、ハンカチ、手拭いストールなどのワークショップも随時受け付けていますのでよろしくお願い致します。



街角ウォッチング⑱
一枚の絵より
～嵐絞り工場の記憶～

ここになつかしい風景を描いた一枚の絵があります。大正9年の嵐絞り工場の風景です。

広い丘を見渡す工場の敷地には、竿に染め上げた絞りが干してあります。大きな丸太を担いで働く人がいて、幾本もの丸太が立てかけられています。青や黄色に染め上げられた嵐絞りを丸太棒のまま干しているところです。

名鉄の神宮前～有松が開通したのが大正6年です。名鉄有松駅（当時は有松裏）の北側にこの工場がありました。嵐絞りは鈴木金蔵さんが明治12年に考案したもので、杉の丸太棒に木綿生地を巻き、その上に糸を巻いて押し縮めて丸太ごと染漕に入れて染める豪快な技法です。従来の絞りに比べて短時間でできる画期的な技法で、大正・昭和初期にかけて大流行しました。

勿論、いまも数ある絞り技法の中のたいせつな技術です。

（浅野康子）

有松絞染工・解散記念冊子より

『晩秋の有松を楽しむ会』

「いけばな」「きもの」「お茶」「絞り」等、伝統文化に因んだ様々な展示やイベントを実施します。

開催日　11月14日(土)・15日(日)
場　所　有松東海道一帯
主　催　晩秋の有松を楽しむ会実行委員会

有松で11月14日(土)に開催予定の全国町並み保存連盟・東海ブロックゼミは来年度に延期となりました。（開催日未定）

「有松を学びなおそう」

有松歴史研究会を有志で開催します。「有松町史」（昭和31年発行）や「有松志ぼり」（昭和47年発行）を改めて読み解きます。ぜひご参加ください。（詳細後日）

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や内容変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◆町並み研修会

本年度は実施を見送ります

◆主な来訪者◆

（有松あないびとの会ご案内分）

新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う自粛などの影響で、ご予約いただいた30組以上の町並み案内はキャンセルとなりました。

写真はウィズコロナに配慮した桜花学園の学生さんのフィールドワークでの町並み案内の様子です。

マスク着用で少人数でのご案内

俳句

「雑詠」　江山

絞り店いろどる藤の零れをり
凌霄の花の先なる東海道
美濃郡衙色なき風が礎石撫ぐ

訃報

河村順平様
令和2年7月7日ご逝去（享年92歳）
会計監査・参与として会をお支え頂きました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

「特別な夏」。新型コロナウイルスの感染拡大は、私達に想像もできなかった真夏のマスク着用と行動制限を課し、お祭りを始め大勢で楽しむ各種イベントをことごとく中止とさせました。有松でも第36回絞りまつりが中止となり、秋のからくり山車の曳行も見送りです。今春に著名な雑誌等で全国に紹介された有松ですが、観光客の皆様は激減。そのような中にあっても先人たちから繋がれてきた有松の町並みは何ら変わりなく、酷暑にも美しい佇まいです。開村以来、色々なことがあったであろう有松のまち。町並みは、コロナ禍の苦難もきっと乗り越えると、日本遺産のまち有松を見守り支えてくれていると感じられます。（加藤明美）

企画編集（加藤一成・長塚　啓・福岡友一）

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。

一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
一、人と人とがつながり、ぬくもりのある有松を創ります。
一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会
二〇二〇年九月三十日発行
（年二回発行）
〒458-0924
名古屋市緑区有松三〇一二（有松商工会内）
TEL（052）621-0178
FAX（052）622-7401